# 太郎・次郎

石岡市立東成井小学校
学校だより　１４号
令和５年９月　１日
校長　　石﨑　重臣

「太郎・次郎」は，校庭にそびえるいちょうの木です

【組織目標】児童が主役　みつけよう　かんがえよう　やってみよう～認める　寄り添う　支える～

## 新たな目標を掲げて！～登校再開日に寄せて

４２日間の長い夏休みを終えて、元気に「なるいっこ」の子どもたちが登校しました。夏休み前集会で話した「自分の命は自分で守る」という約束を、子どもたち全員が守ってくれたことをとても嬉しく思います。保護者の皆様のあたたかいご協力にも心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

この夏休みは、記録的な猛暑が続きましたが、夏休み明け集会にて声をかけると、「元気に過ごせた！」という声がたくさん聞こえてきました。このことも、とても嬉しい限りです。夏休みでしかできないことを経験した子どもたちは、そこで得たものを９月からの学校生活に大いに生かしてくれることを願っています。

この集会で、東成井小の卒業生の活躍について子どもたちに紹介しました。第105回全国高校野球選手権記念大会で茨城代表の土浦日本大学高校がベスト４入りしたことは記憶に新しいことと思います。その準決勝に先発した伊藤彩斗さんが、母校である東成井小を訪ねてくださいました。

小学校１年生から野球を続けてきた伊藤さんが「甲子園で優勝したい」と思うようになったのは、土浦日大高校に入学してからのことだそうです。それまでは「野球が上手になりたい」「試合で活躍したい」と思っていただけでしたが、高校に入学して同じ野球部の仲間と出会って、「甲子園で優勝する」という夢を新たに掲げたのだそうです。夢の実現に向けて猛練習していく中でも、大事な試合で逆転されて敗れた悔しさや、試合に出られなかった辛さなどがたくさんあったことを話してくださいました。

伊藤さんは、これからも野球を続け、プロ野球の選手を目指して頑張っていくそうです。東成井小の子どもたちにも、夢に向かって諦めないで頑張ってほしい、と熱く語ってくださいました。なるいっこたちも、新たな目標を掲げ、諦めずに頑張っていくことをみんなで誓い合いました。

大舞台 自慢の変化球　先発・伊藤彩

先制点を許した直後の一回、死二塁、得点圏に走者を背負い、迎えたのは慶応の1番丸田湊斗選手。土浦日大先発の伊藤彩斗投手は「今度こそ自慢の変化球で抑えてやる」と思っていた。丸田選手は変化球への対応に定評があり、一回は圧を感じて四球を許してしまった。2度目の対戦は、初球から気迫のこもったスライダーを投げ打ち取った。

[illegible]の後に立つために、縦と斜め2種類のスライダーを磨いてきた。「夢の舞台で自信の持てる球で勝負できて、最高の思い出」。腕を試い、[illegible]な表情を見せた。

2023.8.22読売新聞より

## 奉仕作業ありがとうございました

８月２６日（土）にＰＴＡ奉仕作業が行われました。４０名を越える保護者の皆様にご協力をいただき、グラウンドや敷地内の除草を行いました。暑い中でのご協力に心より感謝いたします。ありがとうございました。夏の間にすっかり伸びてしまった草でしたが、おかげさまでとてもきれいになりました。子どもたちが安心して遊んだり、学んだりできる環境をこれからも維持していきたいと思います。